

# スウェーデン 環境ニュース

Vol. 7 2003年 12月号 ページ1/3

## 際立つ環境技術の輸出増加

貿易統計をまとめているスウェーデン貿易公団 (Exportrådet) が11月25日、スウェーデンの環境技術輸出に関する報告書を発表しました。同公団によると、スウェーデンの環境技術関連企業は99年以来成長傾向にあり、2002年はスウェーデンの輸出全般が停滞していたのに対し、環境技術の輸出は8.4%の伸びを見せました。廃棄物、リサイクル、大気の浄化、水、下水関連の商品およびサービスを提供する企業による2002年度の輸出総売上高は150億SEK (約2,228億円) に達し、同業界の予測を上回りました。スウェーデンの主要輸出品として有名なトラックと家具のそれぞれの割合を超える規模となり、スウェーデンの主要輸出産業として顕著さを増しています。

スウェーデンのこれまでの輸出は大企業が中心でしたが、環境技術分野のほとんどの企業は中小企業です。それらは全国に点在し、50%は従業員10人以下の企業です。輸出先の3分の2はEUと北欧諸国ですが、間もなくEUに加盟しようとしている東欧の国々や、中国などのアジア諸国も将来の市場として大きな可能性があると考えられています。

また、環境技術関連企業の9割は、将来の展望に関し「成長の見通しがよい」と答えています。

(貿易公団プレスリリース03/11/25付資料)

## 水銀回収・リサイクルの MRT社 設立者が表彰

「今年のグノーショー人」という賞は、昔から活発なビジネス精神を持つ人々が多いことで知られるグノーショー (Gnosjö) 自治体からその名を得ています。スウェーデン最大の銀行、フォレニングスパーバンク (Förenings-sparbanken)、企業家連盟 (Företagarna)、グノ

ーショー自治体が毎年共催するものです。この賞の目的は、ビジネスアイデアを実現して雇用を創出し、スウェーデン経済に貢献しているスウェーデン企業人を表彰することです。

2003年の受賞は、水銀などの重金属を回収・リサイクルする機械やシステムを製造販売しているMRT社のクリスタ・スンドベリユ (Christer Sundberg) 社長とハンス=エリック・モーンソン (Hans-Erik Månsson) 会長です。同社は1979年以来、この分野での技術開発に取り組んできました。特に、廃蛍光灯の水銀を回収する技術は世界の先端を行くもので、日本など世界各地で使用されています。賞金の50,000SEK (約74万2,500円) は、受賞者が世界から「グノーショー」のような町をひとつ選び、そしてその町を訪問するために利用する旅行券の代金というかたちをとっています。

MRT社の本社は、スウェーデン南部のカールスクロナ (Karlskrona) 市にあります。

<http://mrtsystem.com> (日本語の会社案内パンフをダウンロードすることができます。)

(MRT社プレスリリース03/12/10、その他)

## 成長スピードの早さで 屋上緑化企業が表彰

屋上緑化が日本で話題になっています。スウェーデンではそれほどの注目度はないようですが、すでに10年前から導入されています。

スウェーデン初の機械式駐車場が今年、ストックホルム市内に完成しました。日本ではそう珍しくありませんが、スウェーデンでは今回完成したものが実験版として注目されているところです。この駐車場は地下2階と地上2階の計4階構造で、70台の駐車スペースがあります。自動車は入り口の指定位置に駐車すると、自動的に空スペースに運ばれます。駐車場が不足している同市内では、同規模の駐車場に比べコンパクトで、使用空間が40%小さいのが魅力の一つです。車内の荷物を狙う泥棒が入りにくいという安全面でも評価されています。そして注目の屋上は、苔とセダムで緑化されています。セダムは厚い葉っぱで水をよく吸収し蓄積する、丈夫で手入れを必要としない、背の低い植物です。

自動式駐車場の屋上緑化を施工したのはヴェグ・  
つづく

発行 / 編集 : Lena Lindahl (レーナ・リンダール) 編集協力 : 土屋なおみ

年11回ファックス・電子メール発行、年間購読料5,000円、記事の転載をしたい方は連絡ください。

問い合わせ先 : 電話 / ファックス : 03-3422-7019、<http://www.netjoy.ne.jp/~lena>

## スウェーデン環境ニュース

Vol. 7 2003年 12月号 ページ2/3

1ページからつづく

テック (Veg Tech) 社です。同社は「植物を活用して技術的な問題を解決し、新しい可能性を生む」というビジネスアイデアをもとに、屋上緑化だけでなく、湿地づくり、土壌流出防止対策、雨水浸透しやすい芝生入り駐車場用舗装材など、植物の機能を利用した様々なサービスを提供しています。苗木や種も販売しています。同社は1988年創設で、現在従業員は34人です。フィンランドとデンマークに子会社があり、ノルウェーでは協力会社を通じて販売も行っています。北欧ではこの事業分野における大手です。

ヴェグ・テック社は成長企業として注目されています。ダーゲンス・インデュストリー (Dagens Industri=今日の産業) 紙などによる「今年のガセル企業」にも入りました。これは、軽やかに素早く走るガセルにちなみ、成長スピードが速いと認められる企業をリストアップし表彰するものです。2003年のガセル企業には、全国から967社が選ばれました。

ガセル企業として表彰される条件は

- 4年以上年度会計を公表している
  - 売上高1,000万SEK (約1億1,485万円) 以上
  - 従業員10人以上
  - 売上が3年間継続的に増加
  - 同3年間で売上が2倍以上拡大
- などです。

ヴェグ・テック社は昨年と一昨年、本社のあるクローノベリコ (Kronoberg) 県の「ガセル企業リスト」のトップでした。2003年は、同県のガセル企業26社、343%の売上拡大で2位となっています。

屋上緑化の利点は多く挙げられます：

- 雨水を吸収するので、下水道への負担が減る。
- 水分の多くが空気へと蒸発する。
- 気温の激しい変化をやわらげ室内空気の調節に貢献する。
- 夏は冷却効果がある。

- 冬は断熱効果がある。
- 屋根の劣化を防止する。
- 防音効果がある。
- 景観をよくする。

ヴェグ・テック社がよく設置する苔とセダムの屋根は、季節によって色が変わります。花を咲かせたり、葉を開いたりする植物でできているからです。

同社は屋上緑化の効果をさらに明確にするため、ヨーテボリのチャルマーズ (Chalmers) 工科大学と共同研究を行っています。目的は、屋上緑化による室内気温、そしてそれに関連した冷却と換気に必要なエネルギー消費への影響を調べることです。

また、同社は、ストックホルム市地下鉄中央駅出口にあるセルゲル (Sergel) 広場に面した文化会館 (Kulturhuset、1974年完成) の屋上テラスの緑化も手がけています。同会館のコンクリートでできたテラスは、2002年、ストックホルム市の750周年を機に変身し、カフェや野外舞台として使用できるスペースに庭が作られました。

この他同社はストックホルム郊外のエルブショー (Älvsjö) に事務所を構える通信大手、エリクソン (Ericsson) 社の事務所ビル屋上にも、苔とセダムの緑化を施工しています。

(<http://www.vegtech.se>、その他)

## 持続可能な開発局を 内閣官房内に新設

12月1日、スウェーデン内閣官房に、政府が進める持続可能な開発のための取り組みを調整する局が新たに設置されました。持続可能な開発の実現は、政策全般を網羅する政策目標です。それは、すべての政策が経済・社会・環境の各面に長期的にどのような影響を与えるか、配慮して決定されなければならないことを意味します。ステファン・スターン (Stefan Stern) 局長のもとで、人口変化の予測などを考慮しながら新しいアイデアを打ち出したり、持続可能な開発のための政府戦略を発展させたりする役割を果たします。また、持続可能な開発に向けたスウェーデンの国際的な取り組みを調整する役割も担います。スターン局長は以前、産業省の企画課長でした。

(内閣官房プレスリリース03/11/28)

つづく

発行 / 編集 : Lena Lindahl (レーナ・リンダール) 編集協力 : 土屋なおみ

年11回ファックス・電子メール発行、年間購読料5,000円、記事の転載をしたい方は連絡ください。

問い合わせ先 : 電話 / ファックス : 03-3422-7019、<http://www.netjoy.ne.jp/~lena>

## スウェーデン環境ニュース

Vol. 7 2003年 12月号 ページ3/3

2ページからつづく

### 環境相からクリスマスカード

12月15日、レナ・ソンメスタッド (Lena Sommestad) 環境相から電子メールでクリスマスカードが届きました。生態学的持続可能性国立インスティテュート (IEH) のメーリングリストを経由して、スウェーデン環境ニュースに届いたのですが、幅広く送信されているようです。内容は「持続可能な開発のための政府戦略を見直しているところです。2004年4月1日には、新戦略を議会に提出する予定です。新しい戦略は、あなたにも仕事を進める上での指針の一つとして使ってもらえることを願っています。そのためにはあなたの意見を知ることが大事です。政府のホームページにあるアンケートに是非意見を書き込んで下さい」となっています。この書き込みの締め切りは2004年1月31日になっています。

政府は現行戦略を2002年3月に議会に提出し、同年8月に南アフリカのヨハネスブルグで開催された国連環境会議「持続可能な開発に関する世界サミット (ヨハネスブルグ・サミット)」にも提出しました。

(スウェーデン環境省ホームページ)

### 「持続可能性に向けた 戦略的リーダーシップ」 修士課程を新設、参加募集

バルト海に面したカールスクロナ (Karlskrona) 市 (スウェーデン南部のブレキング (Blekinge) 県に位置する) にあるブレキング工科大学 (Blekinge Institute of Technology) は2003年9月、「持続可能性に向けた戦略的リーダーシップ (Strategic Leadership Towards Sustainability)」という新しい修士課程の開設を発表しました。同課程の9ヵ月間の教育プログラムは、ナチュラル・ス

テップの思考と手法を中心にしたものです。体系的かつ確実な方法で持続可能な社会の実現に進むための知的モデルです。プログラム終了を達成した履修者には、「持続可能性に向けた戦略的リーダーシップ修士号」が授与されます。講師には、ナチュラル・ステップの設立者カール=ヘンリック・ロベール博士 (Dr. Karl-Henrik Robert)、レイフ・ヨハンソン (Leif Johansson、ボルボ社長、元エレクトロラックス社長)、トールビヨーン・ラーティ (Torbjörn Lahti、持続可能なローバツフォシュ (Robertsfors) 自治体プロジェクト・リーダー)、ジミ・ショーブロム (Jimmy Sjöblom、ナチュラル・ステップ講師)、ソング・セービ (Sånga Säby)、元エコホテル環境担当)、マルゴット・ヴァルストルム (Margot Wallström、欧州委員会環境委員) などの顔ぶれが並び、スウェーデン以外からも講師が招かれます。

応募期限：2004年3月1日

プログラム期間：2004年8月30日～2005年6月5日の約9ヵ月間

使用言語：英語、学費：無料、定員：50 - 60人  
問い合わせ先：

Mr. David Waldron, Project Leader  
Strategic Leadership Towards Sustainability  
Blekinge Institute of Technology  
Phone: +46 455 385522  
Fax: +46 455 385507  
E-mail: sustainabilitymasters@bth.se  
Website: www.bth.se/tmslm

ナチュラル・ステップについてはナチュラル・ステップ・インターナショナル日本支部の日本語サイトも。：<http://www.tnsij.org/>

### 新書：日本人から見た、森と関わり のあるスウェーデンの生活

日本の森や木、木材などをテーマに、本を出している浜田久美子さんが、スウェーデン人の森との関わり方を取材しながら体験し、その印象を素直な読みやすいストーリーにまとめました。「スウェーデン・森と暮らす・木と森にかこまれた豊かな日々」と題する本書 (上條滝子さんのイラスト入り) は、2003年12月、(社) 全国林業改良普及協会から出版されました。<http://www.ringyou.or.jp>

発行 / 編集：Lena Lindahl (レーナ・リンダル) 編集協力：土屋なおみ

年11回ファックス・電子メール発行、年間購読料5,000円、記事の転載をしたい方は連絡ください。

問い合わせ先：電話 / ファックス：03-3422-7019、<http://www.netjoy.ne.jp/~lena>